

図1 畑の準備

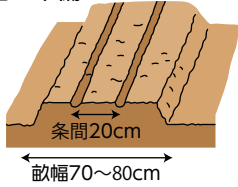


図2-1 間引き①

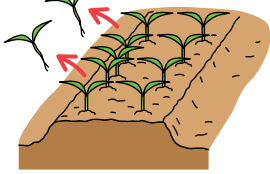


図2-2 間引き②

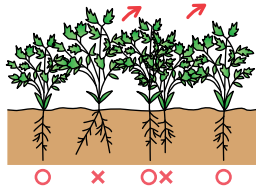


図3 土寄せ

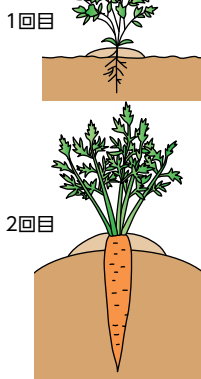
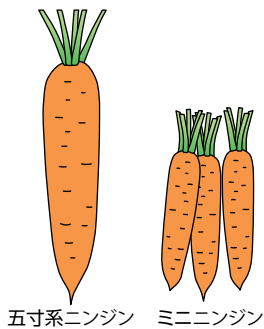


図4 収穫



ニンジン 適期の種まきと灌水で 発芽を万全に



ニンジンの発芽適温は15〜25度で、7〜10日で発芽がそろいますが、35度以上では発芽しません。発芽直後の種は乾燥すると枯死し、過湿では酸素不足で発芽不良になります。その後の生育適温は20度前後の冷涼な気候です。

【品種】

耐病性、耐暑性に優れる品種を選びましょう。五寸系では「向陽二

号」(タキイ種苗)、「黒田五寸」(時なし五寸)(トーホク)などがあります。ミニニンジンは極早生で柔らかく、生食向きです。

【畑の準備】

種まきの2週間前に1平方m当たり苦土石灰100gを散布し、深さ30cm程耕します。種まきの1週間前に、1平方m当たり化成肥料(NPK各成分10%)100gと完熟堆肥2kgを施し、土とよく混ぜます。70〜80cm程度の畝幅に、条間20cm、深さ1〜2cmのまき溝を2条作ります(図1)。

【種まき】

冷涼地では6〜7月、中間地では

7〜8月中旬に種まきします。

畑が乾いている時は、まき溝に灌水しておきます。溝に種を1〜2cm間隔に条まきし、裸種子は5mmの厚さ、ペレット種子の場合は1cmの厚さを基準に覆土します。畑の土が軽い火山灰土の場合は手でしっかりと押さえ付けます。さらに、もみ殻をかぶせて乾燥を防ぐ、黒寒冷しゃで被覆し地温を下げるなどの対策を行います。

種まき前に土にしっかりと水を含ませ、発芽後も土を乾燥させないことが大切です。なお、黒寒冷しゃなどをべたがけしたときは、発芽後すぐに取り除きます。

【間引きと追肥、土寄せ】

本葉2〜3枚のときに密生部や生育が遅い株、逆に極端に進んでいる株を間引きます(図2-1)。

さらに本葉5〜6枚のときに株間を6〜10cmにします。間引く株の根元を手で押さえ引き抜きます(図2-2)。

最後の間引き後に1平方m当たり化成肥料50gを追肥し、株元に土寄せしましょう。収穫期近くには、根の肩の部分にさらに土寄せし、根が緑に着色するのを防ぎます(図3)。

【病害虫の防除】

葉はキアゲハの好物なので、見つけ次第手で取り除きます。ネコブセンチュウに弱いので連作を避け、前作に被害があるときは作付けを控えましょう。

【収穫】

根径5cm程度から収穫できます。太り過ぎて裂根しないうちに収穫をします(図4)。8月まきでは、さらに土寄せして越冬させ、葉が枯れた後でも適宜掘り上げて収穫できます。